

訳者あとがき

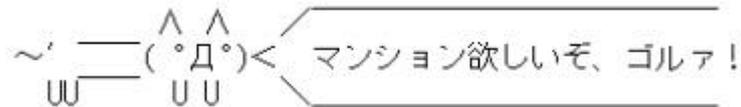
この翻訳は私の大学生活4年間の研究の集大成として完成させたものです。振り返れば大学生活は中世の暗黒時代のようなものでした。当時私は生物学を専攻する学生でした。生物学はどの分野よりもホットで、すばらしい成功を収めていました。多くの同級生がそうするように、私も当然大学院へと進み、研究者の道を歩む、そう信じていました。

ただ、現実はいくつ。どこで歯車が狂ったのがは分かりません。気づいたときには、私は家を追い出され、大学で暮らしてました。(笑) 本当にいろんなことがありました。

A lot of things happened in the previous autumn and winter... Yet when they were all gone, it seemed as if nothing had really happened to me who was sunken in total silence.

結局のところ、大学生活のすべてをヴォイニッチという蝶々を追いかけて過ごしてしまいました。解読は出来ませんでした、全 transcription を完成させました。ただの一つの愛も得ることなく終わりました。いいですか？私は**女の子のお尻より、ヴォイニッチを追いかけた**のです。私は**好きな女の子のお尻より、古文書にエロスを感じる変態**です。ホントは大学なんて勉強するところじゃないかもしれませんがね。サークル入って同級生とセクスとか楽しそうですね。でもどんな人生にも後悔はあります。生きるのに疲れた日もありました。でもヴォイニッチが解読されるまでは死ねません。これからも研究を続けていきます。

ふう、疲れました。これくらいにしておきます。今、私は中小企業の駄目サラリーマンをやっています。毎日つまらない仕事ですが、「食うため仕方ない」と割り切れれば悪くはない仕事です。仕事にヴォイニッチ研究しています。かわいい女の子とも食事いけます。幸せがいつまでも続きますように。



2001年5月 無頼暗(はあと)